

飼育下ムササビにおける木の葉の嗜好性について（2024 年 9 月～10 月）

柴田 歩美

金沢動物園には傷病救護されたのち現在バックヤードで飼育されているムササビが 1 個体いる。本個体において昨年夏季、猛暑による食欲低下や体重減少が見られた。ムササビの食性に関してはいくつかの先行論文が存在するが、その多くが野生個体を対象とした野外調査によるものであり、飼育下のムササビを対象にしたものはほとんどない。また、野外個体におけるデータも個体差や地域差、季節変化が多く見られる。そこで、当園個体における木の葉の嗜好性および採食量の季節変化のデータを収集し、今後の体調管理に役立てること、木の葉の選択肢を増やすことにより QOL 向上を目指すことを目的に調査を行った。

調査期間は 2024 年 9 月～10 月。使用樹種は先行論文や飼育経験においてムササビの採食が確認されているもののうち、園内で比較的容易に入手可能な 12 種（サクラ、シラカシ、イロハモミジ、スギ、スダジイ、ヤマモモ、マテバシイ、タブ、ケヤキ、コナラ、ムクノキ、ツバキ）を使用した。これらを 3 種ずつ 4 グループに分け、3 日間連続給餌して消費量を評価（選抜試験）し、その後上位 5 種を用いてその消費量を観察した（嗜好性試験）。

今回給餌した種すべてにおいて少なくとも一回以上は手を付けた痕跡があり、ムササビが幅広い樹種を採食対象とすることが改めて明らかとなった。もっともよく食べた種はムクノキで、全体的に葉の柔らかい種を好むことが分かった。サクラは 10 月に入り葉が黄色になると採食量が減少し、飼育個体においても季節に応じて嗜好性が変化する可能性が示唆された。